

**TIST**

Tsukuba Institute of Science & Technology

こども未来学科  
令和5年度2学年用 前期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和4年度 2学年 前期シラバス

目次

こども未来学科 幼児保育コース・幼児スポーツコース・幼児音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の本質・目的に関する科目		
	こども家庭支援論	1
	特別支援教育	2
保育の対象の理解に関する科目		
	こどもの保健Ⅰ	3
	こどもの食と栄養	4
	人間関係論	5
	造形表現論	6
保育の内容・方法に関する科目		
	保育教育課程論	7
	指導法「健康」	8
	音楽表現論	9
	指導法「造形表現」	10
	指導法「言語表現」	11
	表現とこどもの運動	12
	障害児保育Ⅰ	13
	社会的養護Ⅱ	14
	介護基礎Ⅱ	15
	介護技術Ⅱ	16
	(選) 保育実技Ⅲ<幼児保育コース>	17
	(選) 保育実技Ⅲ<幼児スポーツコース>	18
	(選) 保育実技Ⅲ<幼児音楽コース>	19
	音楽表現Ⅲ	20
保育実習		
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	21
学外実習		
	介護実習	22

授業科目名：こども家庭支援論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・子ども家庭支援論	
鎌田 由紀子	[実務経験]保育士 [研究テーマ]乳幼児保育・子育て支援分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ こども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。			
授業の概要 子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かしたこども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。			
授業計画 1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. の諸相 15. 要保護児童とその家庭に対する支援 16. 試験			
テキスト 「新・基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論」松原康雄・村田典子・南野奈津子／著 (中央法規出版) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。 「<新版>家庭支援論 コンパクト版 保育者養成シリーズ」谷田貝公昭／監修(一藝社) 「実践 家庭支援論」松本園子・永田洋子・福川須美・堀口美智子／編(ななみ書房)			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：特別支援教育		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の本質・目的に関する科目	・特別支援教育		
教育の基礎的理解に関する科目	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 特別な教育的ニーズを有するこどもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのあるこどもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 特別な教育的ニーズを持つこどもを支援するにあたって、こども自身の特性を理解するのはもちろん、こどもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。			
授業計画			
1. 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程	①特別な教育的ニーズとは何か		
2. //	②特別支援教育課程と学びの場		
3. 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性	①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち		
4. //	②こども一人ひとりのニーズに合わせた学び		
5. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のあるこどもの特性	①多様なこどものニーズの理解		
6. //	②多様なこどもの学びと生活		
7. 子供のニーズに合わせた支援	①教育課程における支援		
8. //	②通常学級における担任による支援		
9. 教育チームによる組織的支援	①個別の指導計画及び個別の教育支援計画		
10. //	②アセスメントに基づく計画と評価		
11. 特別支援教育コーディネーター	①特別支援教育コーディネーターの役割		
12. //	②外部教育資源との連携と協働		
13. 保護者・家庭支援と連携	①保護者・家庭をとりまく問題		
14. //	②保護者・家庭とのつながりの重要性		
15. 特別な教育的ニーズを考える	母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解		
16. 試験			
テキスト 「特別支援教育」野口和也・渡辺隼人・須藤邦彦・渡邊孝継・大橋智・成瀬雄一・前川洋子／著 (豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの保健Ⅰ	授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目	・こどもの保健Ⅰ	
荻根 文江	[実務経験] 看護師	
授業の到達目標及びテーマ		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児・母子保健の意義や統計を学び、こどもの実態を理解する。</li> <li>2. こどもの成長・発達の特徴を理解し、その過程に応じた対応・支援を学ぶ。</li> <li>3. こどもの発育・発達の過程でおこる心身の疾病等について理解する。</li> <li>4. こどもの保育の環境・衛生環境等についての安全管理について必要性を理解する。</li> <li>5. こどもの成長には欠かすことができない家庭、専門機関、地域の連携について理解する。</li> </ol>		
授業の概要		
<p>生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。具体的な内容として、こどもの身体発育・生理機能・運動機能並びに精神機能の発達について理解を深める。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健の意義・小児の健康指標について</li> <li>2. 小児の発育について：身体発育と計測方法</li> <li>3. 身体発育の評価と問題点：こどもの肥満・生活習慣病</li> <li>4. 小児の生理機能 ①中枢神経、呼吸、脈拍と血圧、排泄機能、水分代謝</li> <li>5.            "            ②免疫機能、睡眠、感覚機能</li> <li>6. 小児の運動機能 ①新生時期の運動機能の特色</li> <li>7.            "            ②乳児期特有の発達、全身運動の発達</li> <li>8. 小児の精神機能：精神機能と発達、精神発達の評価</li> <li>9. 先天異常、遺伝障害、胎児障害</li> <li>10. 家庭看護：薬と投薬、発熱、痛み</li> <li>11. 予防接種の考え方の変遷</li> <li>12. ワクチンとは</li> <li>13. 事故と安全対策 ①こどもの事故の特性、各事故に対する安全確認</li> <li>14.            "            ②救急処置の基本対応、AEDの利用、救急体制の確立</li> <li>15. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における小児の健康政策</li> <li>16. 試験</li> </ol>		
テキスト		
<p>「こどもの保健」宮津澄江／著（豊岡短期大学）  「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>		
参考書・参考資料等		
適宜紹介する。		
学生に対する評価		
提出課題および試験等により総合的に評価する。		

授業科目名：こどもの食と栄養		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の対象の理解に関する科目		・こどもの食と栄養	
埴 光子	[実務経験]高等学校教諭（家庭科） [研究テーマ]家庭科分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。</li> <li>・こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。</li> <li>・食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解するとともに地域社会との関わりをもちながら、それを活かして活用するための力をつける。</li> <li>・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</li> <li>・特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。</li> </ul>			
授業の概要			
食生活の意義や栄養に関する基本知識を学び、こどもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会と文化との関わりの中で理解する。さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要するこどもの食と栄養についても理解する。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児栄養の重要性</li> <li>2. 精神運動機能・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養</li> <li>3. エネルギー・栄養素・代謝に関する基礎知識</li> <li>4. 栄養素の機能の概要</li> <li>5. 食事摂取基準の意義とその活用</li> <li>6. 食品の基礎知識、献立作成</li> <li>7. 妊娠期の栄養と食生活</li> <li>8. 授乳期・乳児期の栄養の特徴</li> <li>9. 幼児期の食機能の発達と成長</li> <li>10. 間食（おやつ）の意義</li> <li>11. 幼児期の栄養上の問題</li> <li>12. 疾病・体調不良のこどもの食と栄養</li> <li>13. 生涯発達における食生活</li> <li>14. 障害の種類と特徴（食生活に配慮を必要とする主な障がい）</li> <li>15. 栄養教育（食育）の目的と必要性</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
「こどもの食と栄養」久保田絹江／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「こどもの食と栄養演習」小川雄二／著（建帛社） 「日本食品成分表」 「こどもの食と栄養」堤ちはる／著（萌文書林） 「乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会／編 （児童育成協会児童給食事業部）			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：人間関係論		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目	・人間関係論		
領域および保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
野口 孝之	[研究テーマ]人間科学・教育心理・保育内容「人間関係」分野		
岡田 ひろみ	[実務経験]保育士		
授業の到達目標及びテーマ 現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。			
授業の概要 領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。			
授業計画			
1. 領域「人間関係」	①ねらいと内容		
2. //	②領域の相補性（保育活動の総合性とは）		
3. 人間関係と取り巻く社会環境	①少子高齢化		
4. //	②家族の変化		
5. //	③身近な環境の変容		
6. //	④メディアの変化		
7. 人間関係をつむぐこどもの発達	①規範意識と道徳性の芽生え（育ち）		
8. //	②ルール、決まり事の意味と意義		
9. 人間関係をつむぐこどもの発達	①自立心、協同性の芽生え（育ち）		
10. //	②自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）		
11. 人間関係とこどもの遊び	①遊びの中で育つ乳児の人間関係		
12. //	②遊びの中で育つ幼児の人間関係		
13. 人間関係とこどもの生活	①家庭とのかかわりとこどもの発達		
14. //	②地域とのかかわりとこどもの発達		
15. 今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）			
16. 試験			
テキスト 「人間関係論」原田敬文・栗岡あけみ・丹後政俊・吉益俊文・野口和也／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：造形表現論		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目	・造形表現論		
領域および保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。			
授業の概要 幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 3. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴 4. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの指導 5. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの援助 6. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの評価 7. えがく活動における形態・色彩の理論 8. えがく活動における絵画技法、製作内容と材料・用具 9. つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材） 10. つくる活動における製作内容と材料・用具 11. 造形あそびにおける各種表現技法 12. 造形あそびにおける製作内容と材料・用具 13. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 14. 美術の歴史的展開の概説 15. 乳幼児造形教育の課題とまとめ 16. 試験			
テキスト 「造形表現論」岩田健一郎・前田豊稔・八木遼蒼・矢元政行・小山貞雄・東山明／著 （豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			



授業科目名：保育教育課程論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目	・保育の計画と評価		
教育の基礎的理解に関する科目	へ 教育課程の維持及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
森寄 正幸	[実務経験]保育士・幼稚園教諭 [研究テーマ]保育課程論・保育内容・保育内容「人間関係・環境」・発達心理分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。</li> <li>2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に習得する。</li> <li>3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体像を動的にとらえ理解する。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>保育所における保育の計画や評価について体系的に学ぶ。カリキュラムの構成、保育内容の展開方法である指導計画について実践的に学ぶとともに保育所における保育に関する保育士、保育所の自己評価のあり方についても学ぶ。さらに幼稚園での教育課程と照らし合わせることでそれぞれの意義を明確にする。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方</li> <li>2. カリキュラムの基礎理論</li> <li>3. 日本における教育課程</li> <li>4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方</li> <li>5. 教育課程の法、教育課程と行政</li> <li>6. 学習指導要領の変遷と特色</li> <li>7. 園生活と長期・短期の指導計画</li> <li>8. 教育・保育課程編成の実際</li> <li>9. 保育の基本と実践</li> <li>10. 記録及び省察による教育・保育の質向上</li> <li>11. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム</li> <li>12. 明治・大正・昭和前期・後期の保育の歴史</li> <li>13. 危機管理保育のカリキュラムの意義・必要性</li> <li>14. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷</li> <li>15. 教育課程をめぐる諸問題</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
「教育課程論」肥後耕生／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「教育課程・保育計画総論」田中亨胤・佐藤哲也／著（ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「健康」		授業形態：演習 (集中)	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
中村 容一	[実務経験]健康・体力づくり事業財団研究員 [研究テーマ]健康教育・保育内容「健康」分野 豊岡大学通信教育部教授・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。こどもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場でこどもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、こどもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。			
授業の概要 こどもの健康の意義と身体諸機能の発達について理解し、病気の予防や事故の防止など、こどもの健康・安全に対する配慮・指導・援助についての具体的内容や方法を学び、こどもの健康教育に携わる保育者として求められる基本的態度及び能力を養う。			
授業計画 1. 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観 2. こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 3. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 4. 発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 5. こどものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン 6. こどもの健康と虐待 7. 基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 8. 食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る 9. こどもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 10. 発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 11. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 12. 情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 13. 健康と自然環境、園外保育の活動内容 14. 園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 15. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ 16. 試験			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 担当教員が指示する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽表現論		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目	・音楽表現論		
領域および保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 感性と表現に関する領域「表現」を理解し、こどもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、こどもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。			
授業の概要 領域「表現」における音楽表現に視点を置き、こどもが遊びや生活の中で、こどもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、こどもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、こどもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。			
授業計画 1. 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 2. 音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解 3. 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 4. イメージを表現する為の音や音階の理解 5. 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解 6. 時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 7. 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 8. 身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 9. 保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解 10. 幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践 11. 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 12. 身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 13. 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 14. ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践 15. 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践 16. 試験			
テキスト 「音楽表現論」森川京子・茨木金吾／編（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「造形表現」		授業形態：演習 (集中)	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。			
授業の概要 乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 2. 造形教育の思想と指導法の推移 3. こどもの発達段階における表現の特徴 4. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 5. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく） 6. 〃 7. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる） 8. 〃 9. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび） 10. 〃 11. 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび） 12. 〃 13. 〃 14. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法） 15. えがく、つくる、造形あそびの保育活動における情報機器及び教材の活用 16. 試験			
テキスト 「造形表現論」岩田健一郎・前田豊稔・八木遼蒼・矢元政行・小山貞雄・東山明／著 (豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「言語表現」		授業形態：講義 (集中)	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容の理解と方法	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
富倉 志保	[実務経験] 豪州私立中高等学校・インターナショナルスクール日本語教師 [研究テーマ] 保育内容「言葉」・児童文化財・外国語教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。			
授業の概要 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いた表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。			
授業計画			
1. こどもの言語表現指導法と指導案の作成 ①幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容	9.	〃	③絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成
2. 〃 ②言語表現の指導法及び指導案の作成	10.	〃	④絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り
3. 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 ①言語表現活動の意義と範囲	11.	〃	⑤わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法
4. 〃 ②言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法	12.	〃	⑥わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点
5. 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 ①絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点	13.	〃	⑦わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法
6. 〃 ②わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点	14.	〃	⑧わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り
7. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導 ①絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法	15.	〃	年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について
8. 〃 ②絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法	16.	試験	
テキスト 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「紙芝居－共感のよろこび」 まついのりこ／著（童心社） 「アプローチ児童文学」 関口安義／著（翰林書房） 「えほんのせかい こどものせかい」 松岡亮子／著（文春文庫）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：表現とこどもの運動		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容の理解と方法	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]幼児体育・舞踊教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解する。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に応じて展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。			
授業の概要 こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。			
授業計画			
1. 社会的背景を考慮しつつ ①運動遊びのねらい			
2. 〃 ②運動遊びの援助について（個別の支援計画等）			
3. こどもの発達と運動について ①身体・形態・機能・こころの発育発達			
4. 〃 ②こどもと運動			
5. 運動遊びの基本的な動き ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）			
6. 〃 ②運動表現の要素（調整力：身体認知・空間認識）			
7. 身体コントロール能力の向上 ①調整力中心の体づくり運動			
8. 〃 ②音・色などの刺激に対応する運動			
9. こどもの表現運動Ⅰ ①表現運動実施の教育的意義			
10. 〃 ②身体表現運動とは			
11. こどもの表現運動Ⅱ ①身体表現運動のねらい			
12. ②実施上の留意点			
13. 発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践）			
①年齢別発達における表現遊び（表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等）			
14. 〃 ②手遊びとリズム表現（糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ…等）			
15. 表現運動（運動遊び）における安全指導			
①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等）			
16. 試験			
テキスト 「表現とこどもの運動」廣田邦生・泉一郎・山本清洋・中村悠希／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：障害児保育Ⅰ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・障害児保育	
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。</li> <li>2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。</li> <li>3. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。</li> <li>4. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。</li> <li>5. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育に関する現状と課題について理解する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>保育および教育現場において障がいのあるこどもたちと接していくために必要な知識や支援の方法などについて学習する。障害児保育Ⅰでは、障がい児保育および教育を支える理念、様々な障がいについて、さらにその援助方法、環境構成について考える。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷</li> <li>2. 障がいのあるこどもとの統合保育と地域社会への参加</li> <li>3. 差別解消と合理的配慮</li> <li>4. 身体障がい児の理解と支援</li> <li>5. 知的、発達障がい児の理解と支援</li> <li>6. その他の障がい児の理解と支援</li> <li>7. 支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、こども同士）</li> <li>8. 障がい児のコミュニケーション</li> <li>9. 障がい児と遊ぶ ①感覚遊び</li> <li>10.            〃            ②運動遊び</li> <li>11. 障がい児保育の健康と安全</li> <li>12. 統合保育の活動</li> <li>13. 支援体制づくりのために</li> <li>14. 障がい児の支援計画</li> <li>15. 障がい児保育の現状と課題</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
<p>「新・基本保育シリーズ17 障害児保育」西村重稀・水田敏郎／著（中央法規出版） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会的養護Ⅱ		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・社会的養護Ⅱ	
太田 裕子	[実務経験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]社会的養護・社会福祉・障害児保育・教育・学校教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。</li> <li>・ 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>・ 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>・ 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>・ 社会的養護におけるこども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ul>			
授業の概要			
社会的養護に関する理解をさらに深め、乳児院や障害児施設などの社会的養護の生活特性や実際について学ぶ。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの権利擁護</li> <li>2. 社会的養護におけるこどもの理解</li> <li>3. 社会的養護の内容                      ①日常生活支援</li> <li>4.                      "                                      ②心理的支援</li> <li>5.                      "                                      ③自立支援</li> <li>6. 施設養護の生活特性および実際      ①乳児院等</li> <li>7.                      "                                      ②障害児施設等</li> <li>8. 家庭養護の生活特性および実際</li> <li>9. アセスメントと個別支援計画の作成</li> <li>10. 記録および自己評価</li> <li>11. 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践</li> <li>12. 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践</li> <li>13. 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）</li> <li>14. 社会的養護における家庭支援</li> <li>15. 今後の社会的養護の課題と展望</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
「社会的養護Ⅰ」石田易司／著（豊岡短期大学） 社会的養護Ⅱみらい×子どもの福祉ブックス 喜多一憲監修・堀場純矢編集（みらい） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			



授業科目名：介護基礎Ⅱ		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における尊厳保持・自立支援</li> <li>・介護・福祉サービスの理解と医療との連携</li> </ul>	
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
倉持 みどり	[実務経験]介護福祉士		
荻根 文江	[実務経験]看護師		
平山 麻理子	[実務経験]管理栄養士		
島田 麻実	[実務経験]介護福祉士・看護師		
授業の到達目標及びテーマ 介護基礎Ⅱでは利用者の能力を最大限に生かすという自立支援の考え方に従い、総合的な介護活動を実践するための知識を身に付ける。			
授業の概要 要介護者の自立支援と重度化防止のための知識を身に付け、活用・発揮されるようにする。また介護において老化や認知症を理解することの必要性に気づき、高齢者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
授業計画			
1. 介護における尊厳の保持・自立支援			
2. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
3. 介護におけるコミュニケーション技術			
4. 老化の理解			
5. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ①睡眠			
6. " ②終末期			
7. 介護過程の基礎的理解			
8. 総合生活支援技術演習（移動・移乗介助等） ①移動・移乗			
9. " ②食事			
10. " ③入浴			
11. " ④排泄			
12. 総合生活支援技術演習 ①食事介助等			
13. " ②入浴介助等			
14. " ③排泄等			
15. 振り返り			
16. 試験			
テキスト 「介護職員初任者研修テキスト」田中由紀子 他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護技術Ⅱ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		・こころとからだのしくみと生活支援技術	
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
倉持 みどり	[実務経験]介護福祉士		
荻根 文江	[実務経験]看護師		
平山 麻理子	[実務経験]管理栄養士		
島田 麻実	[実務経験]介護福祉士・看護師		
授業の到達目標及びテーマ 介護技術Ⅱでは、主に実技演習を通して、総合的な介護活動を行うための技術を習得する。			
授業の概要 正しい知識とアセスメント結果に基づく介護技術を習得し、利用者本位のサービスを提供できるようにする。また、尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
授業計画			
1. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			①福祉用具の活用方法
2. 〃			②応用動作
3. 〃			③社会参加と支援
4. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			①摂食・嚥下
5. 〃			②福祉用具の活用方法
6. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			①清拭
7. 〃			②洗髪、手・足浴
8. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			①排泄用具の活用方法
9. 〃			②排泄介助の実際
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			①睡眠環境
11. 〃			②安眠のための支援
12. 死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護			
13. 生活支援技術演習、介護過程の基礎的理解（演習）			①移動・移乗
14. 〃			②入浴、清潔保持
15. 〃			③排泄
16. 試験			
テキスト 「介護職員初任者研修テキスト」田中由紀子 他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名： <b>保育実技Ⅲ</b> 〈幼児保育コース〉	授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅲ
岡田 ひろみ	[実務経験]保育士	
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭	
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭	
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭	
授業の到達目標及びテーマ		
乳幼児の発達段階を踏まえた“遊び”を学び、実際の保育展開について研究をし、実践力を身につける。また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。		
授業の概要		
教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。また、美しい日本の四季を感じながら、1年間の歳時記を学び、行事の中に上手く取り入れる力を養う。		
授業計画		
1. 授業オリエンテーション、壁面制作		
2. 指導計画（年間・月案・日案）について、デイリープログラムについて		
3. 部分実習（手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居等）、責任実習について		
4. 発達に応じた制作遊び	① 3、4、5歳児	
5.                                 "	② 0、1、2歳児	
6. 模擬保育（制作活動）	① 素案作成	
7.                                 "	② 指導案作成	
8.                                 "	③ 実践、振り返り	
9. 模擬保育（運動遊び、リズム遊び）	① 素案作成	
10.                                "	② 指導案作成	
11.                                "	③ 実践、振り返り	
12. 実習に向けての指導案作成と模擬保育		
13.                                "		
14.                                "		
15.                                "		
16. 試験		
テキスト		
「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房）		
「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店）		
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）		
参考書・参考資料等		
プリントなどを講義時に配布する。		
学生に対する評価		
出席状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価する。		

授業科目名：保育実技Ⅲ〈幼児スポーツコース〉		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅲ	
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
岡田 ひろみ	[実務経験]保育士		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ 運動遊びに特化した、こどもが楽しく安全に遊ぶための指導法の研究をし、実践力を身につける。 また、その時々の援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。			
授業の概要 指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。また、からだの発達だけでなく、スポーツを通じて相手を思いやる心等、心の教育、人間形成を視野に入れ、こども達を支援できる保育者としての知識と技術を養う。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション、壁面制作 2. 指導計画（年間・月案・日案）について、デイリープログラムについて 3. 部分実習（手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居等）、責任実習について 4. 発達に応じた運動遊び ①3、4、5歳児 5. " ②0、1、2歳児 6. 模擬保育（集団遊び） ①素案作成 7. " ②指導案作成 8. " ③実践、振り返り 9. 模擬保育（制作活動） ①素案作成 10. " ②指導案作成 11. " ③実践、振り返り 12. 実習に向けての指導案作成と模擬保育 13. " 14. " 15. " 16. 試験			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「0～5歳児の発達に合った楽しい運動遊び」柳澤秋孝・柳澤友希／共著（ナツメ社） プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅲ〈幼児音楽コース〉		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅲ	
鈴木 純子	[実務経験]リトミック指導員		
岡田 ひろみ	[実務経験]保育士		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>音楽遊びに特化した、こどもが楽しく表現しながら遊ぶための指導法を研究し、実践力を身に付ける。また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。さらに、リトミック教育では、こどもたちが音楽に身体全体で反応しリズム感や音感を培い、音楽を通じて自己表現することを学び、感受性豊かな情操を育むための指導方法について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。音のニュアンスを感じ取り身体を使って表現したり、リズム活動やソルフェージュの指導法を学んだりしながら、自身の音楽力を高める。さらに、演奏をアレンジする等、リトミック指導に必要な鍵盤楽器の知識・理論を学ぶ。年齢ごとのこどもの発達に応じた教育内容や指導法を学び、幼稚園・保育園のためのリトミック指導者資格2級取得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リズム① ・開講式、リトミックについて、楽しいリトミックの経験</li> <li>2.     " ② ・強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎リズム1</li> <li>3. ティーチング① ・3歳児指導法—1学期</li> <li>4. リズムの演奏法① ・リズムの演奏法 3歳児指導法—1学期</li> <li>5. リズム③ ・楽しいリトミックの経験、基礎リズム2</li> <li>6. ティーチング② ・3歳児指導法—2学期</li> <li>7. リズムの演奏法② ・リズムの演奏法 3歳児指導法—2学期</li> <li>8. リズム④ ・楽しいリトミックの経験、基礎リズム3</li> <li>9. ティーチング② ・3歳児指導法—3学期</li> <li>10. リズムの演奏法③ ・リズムの演奏法 3歳児指導法—3学期</li> <li>11. リズム⑤ ・楽しいリトミックの経験、基礎リズム4</li> <li>12.     " ⑥ ・リズムカノン、リズムフレーズ</li> <li>13. リズムの演奏法④ ・リズムの演奏法 3歳児指導法—1～3学期</li> <li>14. 理論：リトミックの理論とダルクローズについて</li> <li>15. 2級 資格認定試験</li> <li>16. 試験、認定証授与式</li> </ol> <p>※保育実践に基づいた指導案の作成、制作活動や模擬保育の実施を行う。</p>			
<p>テキスト</p> <p>「幼稚園・保育園のためのリトミック3」岩崎光弘・馬淵明彦・箭川玲子・千葉和恵／著 (日本音楽著作権協会)</p> <p>「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編(朱鷺書房)</p> <p>「あそびうた大全集200」細田淳子／著(永岡書店)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>プリントなどを講義時に配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>出席状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価する。</p>			

授業科目名：音楽表現Ⅲ		授業形態：演習	単位：3単位 授業時間数：90H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅲ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭(音楽)・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」・児童文化財分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成(情緒・表現・鑑賞等)を育成することをテーマに学習する。1年間で身につけてきたことを基盤として、現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽能力を養うことを到達目標とする。			
授業の概要 個別指導により、表現豊かに演奏する能力を高め、音楽を楽しむ意欲を育成する。また、教育実習・保育実習に向け、応用性のある音楽的能力を養う。			
授業計画 1. 弾き歌い実践(実習を見据えて園生活、季節のうた等をレベルに合わせて選曲) 2. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 (基礎演習Ⅱ、実践演習、各自の課題に取り組む) 3. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 4. 〃 5. 〃 6. 弾き歌いの実践(お互いの演奏を聴きあう) 7. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習(お互いの演奏を聴きあう) 16. 試験			
テキスト こどもの指導法「音楽表現」西野洋子 茨木金吾 國光みどり 石川ますみ 田上栄美子 菅原峰子/編(豊岡短期大学)			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会/編著(音楽之友社) 「こどものうた200」小林美実/著(チャイルド本社) 弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実習指導Ⅰ（保育所）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
保育実習		・保育実習指導Ⅰ	
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>・実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>実習の意義を理解し、学校での今迄の学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくかを演習として考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立ててみる。</p> <p>（演習）保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。</p>			
実習内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義 ①実習の目的</li> <li>2. " ②実習の概要</li> <li>3. 実習の内容と課題の明確化：実習の内容、実習の課題</li> <li>4. 実習に際しての留意事項 ①実習生としての心構え</li> <li>5. " ②こどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務</li> <li>6. 実習の計画と記録</li> <li>7. 日誌の書き方 ①こどもの活動</li> <li>8. " ②環境構成</li> <li>9. " ③保育者の援助・留意点</li> <li>10. 指導案の書き方 ①保育の準備・環境構成</li> <li>11. " ②予想されるこどもの活動</li> <li>12. " ③保育者（実習生）の援助</li> <li>13. お礼状の書き方</li> <li>14. 事後指導における実習の総括と自己評価</li> <li>15. 事後指導における課題の明確化</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
テキスト			
「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護実習	授業形態：実習	単位：1単位 授業時間数：40H
介護職員初任者研修指定科目	・介護技術	
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野	
授業の到達目標及びテーマ		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者を受容し、共感する姿勢を実践から養う。</li> <li>2. 個人差や生活環境に伴う利用者のニーズの把握と理解を深める。</li> <li>3. 個別支援計画の作成と計画の実践について学ぶ。</li> <li>4. 家族への支援と対応について学ぶ。</li> <li>5. 多様な専門職との連携について理解する。</li> <li>6. 地域社会との連携について理解する。</li> </ol>		
授業の概要		
前半は、観察や活動への参加を通して、介護施設の機能や役割の理解、施設での利用者の生活や一日の流れについて学ぶ。後半は、生活支援計画の理解と実践、職員間や地域との連携の理解し専門職としての職務内容と職業倫理について学ぶ。		
実習内容		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職務の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①施設における多様なサービスと地域活動、一日の流れについて理解する。</li> <li>②介護職の仕事内容や働く現場について理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 生活と家事、快適な居住環境整備と介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①家事援助の機能と基本原則について理解する。</li> <li>②利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備について理解し、介助方法について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>3. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①装うことや整容の意義について理解し、根拠に基づく介助の基本技術を学ぶ。</li> </ol> </li> <li>4. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①体位交換、移動、移乗、車椅子や杖などの基本的な使用方法に基づいた介助の基本技術について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>5. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法、食事に関するからだのしくみを理解するとともに介助の基本技術について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>6. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備、用具、入浴に関するからだのしくみを理解するとともに、介助の基本技術について学ぶ。</li> </ol> </li> <li>7. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ol style="list-style-type: none"> <li>①排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行う。</li> </ol> </li> <li>8. 実習の振り返り <ol style="list-style-type: none"> <li>①介護施設において、介護全般を自ら体験・実践し、専門職として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の実態に触れ、ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、利用者を支援するために必要とされる能力を養う。</li> </ol> </li> </ol>		
テキスト		
「介護職員初任者研修テキスト」田中 由紀子／著（ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等		
プリントを講義時に配布する。		
学生に対する評価		
介護職員初任者研修の実施要項の「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」に則り、学生が学んだ知識・技術等の習熟度について評価する。		